



ちょっとお茶にしませんか

第7話

## 鉄好人海外行

### 宮殿の前でハイ・ポーズ Say cheese from a shoulder of a guard!

山本誠志

Masashi Yamamoto

日科情報株式会社 (元) 住友金属工業 (株)

皆さんも古城とか宮殿といった名所・旧跡を訪れることがあると思います。私的には、そのままあるいは若干の手直しで現在も使われている建物に興味を覚えます。

おもしろい案内書きに接しましたので、紹介しましょう。

観覧三態

見(けん) さっとみる。

視(し) くわしくみる。

観(かん) 心で味わってみる。というものです。

これは、日本のある民族博物館の入口に掛かっていた言葉です。そこの館長はその地域の小学校の校長先生でした。先生は何も説明しませんが、私には、なぜか真っ先にその案内書きが目に入ってきたのです。見物、見学、視察、監視、観察、参観などの意味の違いに気付きました。それまでは、ただぼんやりと名所・旧跡をみていましたが、この言葉に出会ってからは、今日は三態のどれで望むかを決めてから、楽しむようになりました。

いまも現役として使われている歴史的建築物を「観」光するのが好きです。「心で味わってみる」に通じるのかも知れませんね。その建物に立入るとよくわかります。その地域にぴたりと鎮座し、時代を超えてその地を見守ってきたかのような雰囲気が感じられます。気持ちが落ちつきます。冷静になれます。何か原点に戻ったような気にもなるから不思議です。保存を目的とした歴史的な建築物に立ち入るのは違った気持ちです。

各国の元首の官邸には、この類の建物が使われていることがあります。その門の前には、必ず衛兵が立っています。この衛兵がまたカッコいいのです。ここで、記念写真といきましょう。衛兵の服装は、機能的というよりその国の歴史的な面を重視した服装が多いように思います。この衛兵と並んで記念写真を撮るときのおもしろい話をしましょう。

門の両側には、銃剣を肩に直立不動で一人ずつ立っています。失礼、警護の任務に就いています。ここで、おもむろに、私は並んで記念写真を撮らせてほしいとお願いします。彼らは顔を向けることもなく、目もまっすぐ前方を見つめたままです。答えます。「いいですよ」と。たまには、おもしろい衛兵に出くわすことがあります。「モデル代をいただきます」と。このせりふ、おもしろいですね。実際にゲンナマを差し出されたらどうするのでしょうか。ここで私は「向こう側の衛兵に聞いて、モデル代の安い方に決めるから待っててくれ」と反対側にいきます。そうすると反対側の衛兵は相方の奴、また冗談をやったなという感じで、「フリー・オブ・チャージ」と一言。交渉成立です。このようなやりとりも、時代を越えた舞台上、着飾ったプロの役者と演技しているような気分になれて楽しいものです。一般的に断然なくても記念写真ぐらい撮らせてくれます。彼らも実際は暇を持て余しているのかもしれない。おもしろい奴がきたと思っているでしょうね。

でも、ここで感心することがあります。こんなやりとりをするかしないかに拘らず、並んで写真を撮るとき、銃剣の反対側に立つように指示するか、銃剣を反対側に持ち直して決して銃剣の側には立たせないことです。冗談は言っても、任務にはまじめです。

写真を撮り終えて礼を言い、最初の衛兵の方に戻って彼にも礼を言います。と、彼は「ユー・ア・ラッキー」と一言。ここで私は合掌します。彼は目で笑っています。任務上、おしゃべりができないことは大変なことと思いますが、いろいろな人を見てきたことでしょう。一度聞いてみたいと思いますが、いまだにその機会に巡り会いません。

衛兵交替の儀式を見物に行く人は多いようですが、衛兵と団体で記念写真を撮っている場面にお目に掛かったことはありません。団体のとき、彼らはどう対応するのでしょうか。彼らの服装にも興味をもちます。どの国もいろんな時代を経てきたのです。やはりいまにつながる良き時代に敬意を払っているのでしょうか。そういう時代の服装がベースになっているような気がします。これが、超現代風の官邸になると、衛兵の服装も、超事務?的な服装になってしまうようです。記念写真を撮ろうという気も起りません。撮ることが禁止されているかも知れませんが。

こんなところから、その国、その地方の状況が理解できるのかもしれない。地についた歴史観、常識に触れることができるのも旅行の楽しみでしょう。

「衛兵と並んで、自分だけハイポーズ！」

Say cheese from a shoulder of a guard!